

手編教室

▼手編み作品をもって、北多久公民館教室のみなさん



編物大好き 最新のモードを製作中！

編物の好きな人が集まって、中央公民館の手編教室から始まり、今は北多久公民館、西多久公民館と広がりました。中央公民館は水曜日午後1時から、北多久公民館は月曜日午前9時から、西多久公民館は月曜日午後1時から、週1回開催しています。各教室8人ぐらいが毎回集まります。

参加者は「新しい雑誌を見たり、人が編んでいるのを見て、次に何を編もうかと楽しみに参加しています。家では、なかなか忙しくて編めないの、教室では、2～3時間集中して編みます」と話し、冬は毛糸、これからはサマー糸で夏物も挑戦です。鷹木エミ子先生に製図をしてもらい、自分に合った新しい作品を編むことができます。多久市文化連盟服飾手芸文化の会に所属し、各町の公民館での文化祭や、中央公民館での文化祭りにコーナーを設けて作品を出展しています。市外の会場でも展示会を開催したりします。

鷹木先生は「新しい本から、自分の好きな作品を編めます。棒編・カギ編、初心者も大歓迎です。お友達と一緒に参加しませんか」と生徒募集中です。

問 鷹木エミ子さん ☎75-6702

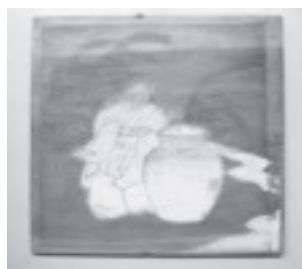
●連載12● 郷土資料館で学ぶ多久の歴史

『中尾神社の天井絵』

北多久町多久原の中尾神社は、正保3年（1646）、多久領3代領主多久茂矩（重徳）が京都祇園神（八坂神社）を勧請し、多久原宿の氏神として創建しました。境内には狛犬や石灯籠、菅原道真公をまつる5基の天満宮などがあり、神殿には一對の肥前狛犬も奉納されています。

中尾神社には、取り外された、明治時代のものと思われる180枚ほどの天井絵が残されています。天井絵は、中には虫食いなど損傷が激しく図柄が見えないものもありますが、彩色が残っているものもあり、往時の華やかさがしのべれます。

図柄はサギ、雀などの鳥類、植物、人物などバラエティに富んでいます。



▲中尾神社の天井絵 酒を酌む人物（酒呑童子と思われる）

誰が描いたのかは分かっていませんが、素朴な魅力を持つ天井絵からは、地域の人々の、神社へ寄せる思いがうかがえます。

多久市郷土資料館ミニ企画

中尾神社の天井絵

会場 / 多久市郷土資料館 3号展示室

会期 / 4月6日(金)～5月31日(木)

開館時間 / 9時～16時 入館 / 無料

休館日 / 月曜日(月曜が休日の場合は開館し翌火曜休館)

■問い合わせ 多久市郷土資料館 ☎75-3002

市民文芸

短歌

《麦の芽短歌会 互選》

いつもなら口やかましき夫なれど
静かすぎれば寝息確かむ
梶原恵美子

母の忌に幾年振りか血族と
会えたよろこび抱き合い涙す
本田 静香

残生の母すごしいる施設には
夢見るようなイルミネーション
浦野 嘉恵

伝え得ぬ想ひ抱きて見あぐれば
ハートの型を雲の作れる
本村 則子

彼もまた病を得しかほのかなる
心かたみにかわせし時あり
尾形 節子

俳句

《楷樹句会 互選》

うとましきことは捨てたり 春隣
不二見恵美子

五尺の身医師に任せて冬の雲
森山 抱石

羅漢等は座禅三昧下萌ゆる
納富 芦風

散歩道春の鼓動の川面かな
野田キヌ子

柁をさす母もいまなき厄落とし
春田 泰子

川柳

《多久市川柳会 互選》

買うたびに財布がぼやく消費税
松下 修

がれき山今試される踏絵板
武富よう平

菜の花の村に専業農家なく
大谷 和

ランドセル背負って孫は鏡見る
古賀ちひろ

頂点もどん底も居て花見宴
西山 残月